

現代の日本および国際社会が警戒すべき寄生虫の  
学名・和名・英名に関する言語文化的理解の試み

牧

純

---

松 山 大 学  
言語文化研究 第37巻第2号 (抜刷)  
2018年3月

Matsuyama University  
Studies in Language and Literature  
Vol. 37 No. 2 March 2018

# 現代の日本および国際社会が警戒すべき寄生虫の学名・和名・英名に関する言語文化的理解の試み

牧			純 <sup>*)</sup>
関	谷	洋	志 <sup>*)</sup>
河	瀬	雅	美 <sup>**)</sup>
中	西	雅	之 <sup>***)</sup>
野	元		裕 <sup>***)</sup>
明	樂	一	己 <sup>****)</sup>
坂	上		宏 <sup>*****)</sup>

## 【要 旨】

生物の学名には馴染みにくいものが多いとよくいわれる。ギリシア語・ラテン語などの古典語に起源を發し、文法も古典語の影響を受けるのがその要因であろう。しかし、合理的な解析と解釈により無理なく親しめるものも少なくない。生物学系研究者は誰しもその事実を少なくとも一部の学名で経験してきたことである。学術で繁用されるそれらの古典語を中心とした語幹が骨組みとなっているから、むしろわかりやすいとも考えられる。

この論文では、多くの寄生虫の学名について、これを確認すべく解析を試みた。属名（学名の前半部分）を alphabet 順に並べ、属名・種名に解析と解釈を試みた。なおかつ、それぞれにおいて、併記した英語名、和名についても言語

\*) 松山大学薬学部感染症学研究室

\*\*\*) 松山大学薬学部有機化学研究室

\*\*\*\*) 松山大学薬学部生化学研究室

\*\*\*\*\*) 松山大学薬学部薬品分析化学研究室

\*\*\*\*\*) 明海大学歯科医学総合研究所

的な解析を加えた部分がある。日本寄生虫学会は寄生虫名をカタカナでなくて漢字表記する慣習がある。それら学名の構成部分が漢字でうまく訳し出されていることに改めて驚く。学部学生の卒業研究論文などでの学部学生教育，大学院生のセミナーにおける指導にも今回の調査研究が役立つことが期待される。

## 【緒 論】

動物・植物・微生物など生物の学名にはなじみにくいものが少なくない。ギリシア語・ラテン語などの古典語に起源を發し，文法も古典語の影響を受けるのもその要因であろう。しかし合理的な解析と解釈により無理なく親しめるものもあることから，学生には成り立ちを教えることで，機械的な記憶の押し付けは回避できるのではないかと考える。

薬学部・大学院の教育においても薬用植物，衛生動物，感染症病原体，媒介動物，一般生物等種々の学名が登場する。学名はやはり古典語起源のものが多く，なじみにくい傾向にある。文法もそれらの影響を受けるものが多い。しかし語の成り立ち，語源調査によりすんなりと頭に入るものもかなりあると期待される。それは，なんとなく，少なくとも一部の学名で誰しも経験してきたことである。西洋の古典語を中心とした語幹が骨組みとなっているからであろう。

多くの寄生虫の学名にて，これらのことを確認したのがこの論文である。属名（学名の前半部分）を **alphabet** 順に並べ，種名（学名の後半部分）とともに解析と解釈を試みたところほぼ予想通りとなった。学部学生の卒業研究論文などでの教育，大学院生のセミナーにおける指導など，現場での活用が期待される。

又日本の薬剤師はこのグローバルファーマシーの時代，かつてない視野の拡大が求められている。国際的のみならずグローバル化した今日，**international and global pharmacist** に本論文が役立てば幸いである。

寄生虫の学名はかつて医師国家試験に、薬用植物のそれは薬剤師の国家試験に正誤を答えさせる問題で出題されたことがあるので、教育の現場でも、それらはないがしろに出来ない。学部学生、大学院生の英語教育に関心の深い本研究者たちによる今回のようなまとめが少しでも新しい学期の教育で有益となれば幸いである。

## 【材料・方法】

寄生虫の学名の属名を **alphabet** 順に並べ、二命名法による学名を記した。次に、和名を ( ) 型の括弧にて、示した。さらに英名を記した。現在もなお検索中ではあるが、検討した限りにおいては、一般英名が特に無いものもある。おそらく、英米ではあまり知られていないものであろう。

各項目には、まずはその概要を記した。次に、それぞれに語源的な解析を加えた。それぞれに加えた和名、英名についても、出来る限り考察の対象とした。

種々の参考書、テキスト<sup>1-105)</sup>を参照して、属名と種名の語源的解釈を試みた。引用文献として最後に纏めてある中でも、寄生虫学の分野で世界的なテキストを大いに参照した。すなわち文献<sup>11, 23)</sup>を大いに参考とした。本論文は「学名で引く寄生虫学事典」となることを最終的に目指しているものである。

## 【結果・考察】

### はじめに一学名表記とは

よく知られているように、生物の学名 (scientific names) の表記方法は、18世紀にスウェーデンの生物・博物学者リンネにより創始された。イタリック体で表記される学名は、最初に属名、次に少し引き離して種名が並ぶ。この二命名法が国際規約に従って、実行されていることを本筆者らは毎年薬学部の学生

たちに教示している。その際、分類の大きな単位から小さい単位に絞り込まれてゆく。その単位のことにも具体的に教える。日本語（英語）のその単位は、界 (kingdom), 門 (phylum), 綱 (class), 目 (order), 科 (family), 属 (genus), 種 (species), 亜種 (subspecies), 株 (strain) も板書する。言語学的に、学名は人名の氏名のような固有名詞ではないが、苗字と名前が連ねられるような一種独特の単語である。

### 各論 アルファベット順の例示 [学名 (和名) 英名]

#### *Ancylostoma duodenale* (ズビニ鉤虫) The “old world” hookworm

[概要] 昔は、上記のアメリカ鉤虫とともに十二指腸虫とも呼ばれた。小腸壁からの吸血量は上記のアメリカ鉤虫よりもさらに大きい。駆虫にはコンバントリン（ピランテルパモ酸塩ドライシロップ製剤）がよい。

[語源] 口部に「歯牙」が明瞭なことから、*Ancylo*（鉤）と *stoma*（口）が属名を構成している。*duodenale* は虫体が発見された部位である十二指腸 (duodenum) の意味である。

#### *Angiostrongylus cantonensis* (広東住血線虫) The rat lungworm

[概要] この感染による好酸球性髄膜脳炎が怖い。感染の原因は、この幼虫が寄生しているカタツムリ、ナメクジなどを生食する食文化、時にゲテモノ喰い、民間信仰が背景にあるが、それらを口にしなくてもそれらが這った生野菜をあまり洗浄せずに食べることで感染することもある。世界中に広がっている寄生虫なので警戒すべきである。動物実験によりベンズイミダゾール系の医薬品であるメベンダゾール<sup>11)</sup>、フルベンダゾール<sup>80)</sup>、アルベンダゾール<sup>11)</sup>の駆虫効果が証明されている。

[語源] 本虫は、1935年中国広東省のラットから最初発見され、その10年後に台湾で初めての人体症例が報告された<sup>11)</sup>。種名 *cantonensis* は地名“広東”から来ている。学名の漢字訳が素晴らしい。文字通り漢字に置き換えたような優れ

た訳である。「*Angio-* 血液- プラス *strongylus* 円筒状」が属名で、学名を直訳すると「血液-円筒状-広東の」となる。ラットの肺動脈・心臓の血液中に寄生している円筒状の線虫で、後ろから「広東の」とつらなる。これは極めてわかりやすい学名である。

学術で対象とする生物の表記は、一般的にはカタカナで記するのが本来である。例えばネコと学術表記するが、決して猫とは書かない。「吾輩は猫である」における場合とは全く異なる。しかし、学会によっては慣例的に漢字で記すこともある。日本寄生虫学会では寄生虫名を出来る限り漢字で記している。これの長所は、広東住血線虫のように学名に忠実な訳語がコイン（造語）できることである。

### ***Babesia microti* (ネズミバベシア)**

[概要] 野生動物や家畜に広く分布している原虫で、ヒトへはマダニにより媒介される。ヒト赤血球に寄生している形態は、熱帯熱マラリアのそれに似ている。

[語源] *Babesia* は Dr. Babes に由来する<sup>23)</sup> *microti* には、小さいの意味が込められている。

### ***Balantidium coli* (大腸バランチジウム)**

[概要] 大腸バランチジウムは、人体に寄生する原虫類では最も大きい種である。主としてブタに寄生するが、時にヒトも感染する。日本では極めて稀。原虫繊毛虫の殆ど唯一の種（今後の遺伝子解析で細分化の可能性あり）。

[語源] *Balantid* は袋状の意味で、*-ium* は小さいという接尾辞（実は大きな原虫であるが、その命名の経緯は不詳）。*coli* は大腸に寄生していることを意味する。

***Brugia malayi* (マレー糸状虫) Malayan filarial worm**

[概要] 蚊（トウゴウヤブカなどの蚊）に刺されて感染する。ジエティルカルバマジンは基本的にフィラリアの幼虫（ミクロフィラリア）に効くが、成虫に対しても効果があるとの説がある。今ではイベルメクチンが賞用される。

[語源] 属名 *Brugia* はこの寄生虫の研究者 Brug (1927) に因んで付けられた。種名 *malayi* にはマレー半島が示されている。本虫は、主として東アジアに分布する。日本でも、かつては八丈小島に分布していた。

***Chilomastix mesnili* (メニール鞭毛虫)**

[概要] 日本では稀、海外で感染することが多い。病原性は小さい。細胞口で細菌などを捕食する。

[語源] 属名 *Chilomastix* は、*Chilo* 「唇」である *cystostome* (細胞口) と *mast* (鞭毛) から付けられた。種名は、フランスの学者、Dr. F. Mesnil に因んでいる。

***Clonorchis sinensis* (肝吸虫) Chinese liver fluke**

[概要] 多種多様の淡水魚に感染幼虫が寄生しており、それらを生食することでヒトが感染する。四国の河川の淡水魚にもその危険性が指摘されてきた。本虫はヒトの胆管に寄生する。成虫寄生に対してはプラジカンテルが著明な効果を呈する。

[語源] 中国語系のテキストにおける漢字表記は「中華肝吸虫」である。*sinensis* は「中華」（音韻の響きは、秦王朝に由来するといわれる“シナ…”である）の意味である。

*Clon* は“枝分かれした”（現在、よく知られた用語ではクローン）、*orchis* は睾丸。睾丸炎は *orchitis* という。実際、精巣が枝分かれしているように見える。*orchid* は花のランの意味もあるが、ここでは睾丸（精巣）の意味で、連結形でも用いられる。例えば *orchidectomy* は「睾丸摘除」である。

### ***Cryptosporidium hominis* (クリプトスポリジウム)**

#### **A protozoa producing cryptosporidiosis**

[概要] これは孢子虫類に属する現代世界の重要な寄生原虫のひとつである。例えば、AID の感染で免疫力の低下した患者には日和見感染症としてこのクリプトスポリジウムが例の一つにあげられる。日本人にも寄生が認められる。水道水に感染病原体が混入していることがあり、新聞で報道されることがある。しかし、感染病原体は殻で覆われているため、いまだにより治療薬は開発されていない。

[語源] *Crypto-* は“隠れた”という意味で、*-sporidium* は孢子を表している。すなわち、**孢子状**の丸い構造物が消化管壁に侵入し**隠れた**状態で寄生している。*hominis* は人の意味である。似た字面のものにクリプトコッカス ***Cryptococcus*** がある。これは寄生虫ではなくて微生物学で扱われる真菌類である。これも語源の点で興味深い。***Crypto-*** は“隠れた”という意味と ***coccus*** 球形が合成された学名である。

### ***Dipetalonema perstans* (常在糸状虫)**

#### **The persistent filaria producing dipetalonemiasis**

[概要] アフリカでアブに刺されて感染するフィラリアの1種。

[語源] Manson 研究者 Ozzard 人名 (カリブ海の島でマイクロフィラリアを得た) それを Manson が新しい種として同定した。種名 *perstans* を“常在”と訳しているが、英語の *persist* に相当する。

### ***Diphyllobothrium nihonkaiense* (日本海裂頭条虫)**

#### **A broad tapeworm peculiar to Japan and the nearby region**

[概要] 全長 10 m を超えることもある条虫 (サナダムシ)。その標本は、目黒寄生虫館や香川大学医学部にある。本成虫はヒトの肛門に垂れ下がるようにし

てはみ出しているのがわかる。その状態は懸垂状と呼ばれる。頭部は腸管壁にもぐりこんでいる。成虫の駆虫にはブラジカンテルが著明な効果を示す。

[語源] 頭部が平らで *phyllo* 葉のようである。それが *di-* に示されるように、2つに割れ、間が *bothrium* 溝（専門的には吸溝と呼ばれる）の構造をなす。それを「裂頭」と呼んでいる。日本海を回遊するサクラマスから感染する裂頭条虫を新種として、1986年山根らが命名した。しかし、サクラマスは他の海域でも回遊する。欧米の国々では *Diphyllobothrium latum* と表記されてきた。しかし、病理学、中間宿主、最近では遺伝子解析などの観点より別の種であることが認められ、現在では日本海裂頭条虫と呼ばれている。

これは島根医科大学（現島根大学医学部）の研究者を中心とした研究成果である。日本で世界に示しうる画期的な寄生虫学・感染症学の研究で、「日本～」と呼ばれる種は少なくない。日本住血吸虫、日本顎口虫、日本脳炎、いずれも日本で研究され、その学術名に日本を冠している。語頭に国名を付する命名には異論もあるが、日本裂頭条虫 *Diphyllobothrium japonicum* または *Diphyllobothrium nipponicum* などがより妥当な種名と思われる。

### ***Diplogonoporus grandis* （大複殖門条虫） The double-pored giant tapeworm**

[概要] 高知県、静岡、鳥取、長崎、島根、福岡、神奈川、三重、広島などの各県で報告があるが、その生活史と感染ルートは十分には解明されていない。感染者は地産地消の割合が高いイワシを生食していた傾向にある。

[語源] 成虫の形態的な特徴から学名が命名されている（予防衛生研）。*Di* は2つ、*gono* は *gonod* 生殖器官、*porus* は *pore* 穴の意味で、1つの体節に2組の生殖器官をもつ。*grandis* は *grand* 大きい意味からつけられているように、極めて大きな条虫で、中には10mを超えるものもある。

### ***Dipylidium caninum* （瓜実条虫） The double-pored dog tapeworm**

[概要] 世界的にイヌに寄生している条虫で、中間宿主はイヌなどに外部寄生

するノミヤシラミの類である。稀ながらそれらからヒトが感染することがある。

[語源] *Di* は2つ, *pyli* は *pyle* (門, 扉), *-ium* は小さい意味で, 対応が理解される。成虫の体節の両側縁に(すなわち2箇所)生殖体腔が開くので「*Di* は2つ, *pyli* = *pyle* (門, 扉)」が理解される。英名に *double-pored* とある。*canine* イヌが宿主であることから *caninum* が種名として付いている。和名の「瓜実」は一つひとつの体節が「ウリザネ」に似ていることから付けられた名前である。実際, イヌの肛門から出る成虫は, ウリの種を連ねたような形態である。

### ***Dracunculus medinensis* (メジナ虫)**

#### **The medina worm, Guinea worm, serpent worm, or dragon worm**

[概要] インド, 中東にかつて分布していたが, 現在アフリカに残存する程度。砂漠のオアシスの水が危険である。雄はせいぜい3~4 cm であるが, 雌は1 m を超えるものもある。雌成虫は足, 胴体などの皮膚表面に寄生し, その部分に潰瘍をなし, そこから幼虫を放出する。その幼虫がケンミジンコ内で感染幼虫となり水とともにヒトの口から感染する。

[語源] 前半部には“小さなドラゴン *dragon*”を意味している接尾辞(縮小辞) *-culus* も加わっている。*medinensis* は中東の地名メジナに由来する。和名も英名もこのメジナ (*Medina*) という地名がそのまま使われている。

### ***Echinostoma hortense* (浅田棘口吸虫)**

#### **A kind of trematode producing echinostomiasis**

[概要] ヒトなどの哺乳類の小腸に成虫が寄生, 体長1 cm に満たないぐらいである。中間宿主は第一段階がモノアラガイ, ヒメモノアラガイ, 第二段階がドジョウ, カエルなどである。ヒトはドジョウ, カエルの生食で感染し, 悪心, 嘔吐などの症状を呈する。プラジカンテルに駆虫効果が寄せられる。

[語源] *Echino-stoma* は, まさしく“棘と口”である。成虫体において, 口吸

盤の周辺に棘が認められる。*hortensis* は *hortensius* 庭園と関係があるのか否かは不明である。和名の「浅田」は、これを研究した寄生虫学者に因んで付けられた。

### ***Entamoeba histolytica* (赤痢アメーバ) A protozoa producing amebiasis**

[概要] 粘血便が出るのは共通であるが、細菌の赤痢菌と明確に区別することが大切である。この病原体には栄養体と嚢子があるが、ヒトへの感染源となるのは嚢子である。この病原体は大腸に寄生するが、その後肝臓などへ転移することもある。嚢子は栄養体と異なり、丸い袋に包まれ保護されているので外界でしばらく生存可能で感染の機会をうかがっている。

汚染された食物や水から経口感染が起こる基本に加え、現代では同性愛者を介しての感染ルートに注目が集まっている。AIDS 感染で症状はさらに重くなる。広域の抗原虫薬メトロニダゾールが著効を呈する。

[語源] *Ento* は接頭語 *endo-* で“中”を意味する。大腸壁の中に寄生しているが、進行すると肝臓、脳にも転移して大きな病害作用を示す。*amoeba* は、体形をくねくねとさせる意味。

この寄生原虫はそれが持つたんぱく質分解酵素で以て宿主側の組織 *histo-* を溶解させる。だから「溶解」の意味のある *-lytica* である。実際、大腸でそのような病巣が認められる。大腸壁を経て門脈を通り肝臓に至り、その酵素で病巣を形成する。実に、特徴がこめられた学名である。

### ***E. coli* (大腸アメーバ)**

*E.* は、*Entamoeba* が同じテキストで2度目以降に出てくる繰り返し表記をこのように略す。他の学名表記も同様である。

[概要] 赤痢アメーバに形態が似ているが、病原性ははるかに低い。

[語源] *coli* は大腸の意味である。

### ***E. gingivalis*** (歯肉アメーバ)

[概要] 歯周病患者によく見つかる。歯肉に寄生する。これまでのところ、栄養体しかみいだされていない。

[語源] *gingiva* は歯肉の意味である。*gingivalis* はここに由来する。

### ***E. hartmanni*** (ハルトマンアメーバ)

[概要] より小さく、赤血球を取り込まず、病原性もほとんどないなど、いくつかの点で赤痢アメーバとは、区分される。

[語源] *hartmanni* は Dr. Hartmann に由来する。

### ***E. nana*** (小形アメーバ)

[概要] かなり小さい。大腸壁への組織侵入性および病原性がない。

[語源] *nana* は小さい意味。下記の小形条虫の種名でも使われる。“可愛い”といった意味合いで、ヒトの女性名にも使われる。

### ***Dientamoeba fragilis*** (二核アメーバ)

[概要] 現在ではトリコモナスのグループとされる。

[語源] *Di* は2つの意味である。*fragilis* は fragile 脆い意味から付けられた。

### ***Fasciola hepatica*** (肝蛭, カンテツ) **The sheep liver fluke**

[概要] 水生植物の表面に嚢に包まれた感染幼虫が付着している。そういう植物の生食で、ヒトも感染する吸虫(ジストマ)の1種。胆管に寄生する。駆虫に以前は bithionol が使われたが、今は製造中止となっている。Triclabendazole の効果に期待される。

[語源] *Fasciola* は fillet (骨のない切り身の肉、確かにそのように見える)の意味から来ている。*Fasciola* は小さな帯の意味があり、医学用語なら“小束”である。日本語の肝蛭(カンテツ)は文字通りには、肝臓にいる蛭(ヒル)の

意味であるが、ヒルのような吸血性はない。To fascinate は縛り上げる、魅惑する、締め付ける意味がある。肝蛭は Fasten, fastener とも関係があるも知れないが、現時点で検討課題である。種名の *hepatica* は肝臓の意味である。これはヨーロッパ型であるといわれる。その説に従うと、日本のものは *F. gigantica* 巨大肝蛭とされる。*gigantica* は勿論大きい意味で、これは吸虫としてはきわめて大きく、そのような様態からネーミングされている。英語名はヒツジに寄生の例が多いところから来ているが、ウシ、シカにも寄生する。

### ***Fasciolopsis buski* (肥大吸虫) The giant intestinal fluke**

[概要] 東南アジア、中国南部、台湾に分布するが日本では稀。人は菱の実に付着した幼虫から感染し、吸虫類成虫では最大級の大きさといえる 5 cm 前後の長さの成虫を宿すこととなる。

[語源] カンテツ肝蛭の意味である *Fasciol-* に *opsis* “似ている” が意味合いとして加わり、「肝蛭に似た吸虫」という学名の属名が成り立っている。*buski* は人名の Busk (この名の英国人が 19 世紀中頃、本虫を発見・記述) に由来する。

### ***Giardia lamblia* (ランブル鞭毛虫) A protozoa producing giardiasis**

[概要] 非衛生的な飲料水や野菜から感染する。国内感染もある。近年、免疫力の低下したヒトたち、例えば HIV の感染者の間でしばしば問題となる。

[語源] 属名は、フランスの学者 Dr. Giard, 種名はボヘミアの医師 Dr. Lambl に因んで命名された。

### ***Gnathostoma spinigerum* (有棘顎口虫)**

#### **One of the species of the gnathostomes**

[概要] 幼虫が寄生しているドジョウ、ライギョ等の生食で感染し、ヒト皮下に寄生して腫脹を起こす。頭部・眼に移行すると厄介である。いまだに治療薬が開発されていないので、外科的に摘出するしかない。

[語源] *Gnatho-* は「顎」の意味で、*-stoma* は「口」の意味である。虫体頭部に棘 *spine* が認められる。これから種名の *spinigerum* が理解できる。和名が漢字でうまく訳し出されている。

### ***Gnathostoma nipponicum* (日本顎口虫)**

#### **A kind of the species belonging to gnathostomes**

[概要] 幼虫が寄生しているドジョウ、ライギョ等の生食で感染し、ヒト皮下に寄生して腫脹を起こす。頭部・眼に移行すると厄介である。これに対しても治療薬がまだ開発されていない。外科的に摘出するしかない。勿論、治療薬の開発が望まれる。

[語源] この寄生虫はドジョウ、ライギョの生息するところであれば、広く日本各地に分布する可能性がある。海外からの報告はこれまでのところない。日本で研究された顎口虫であることから、*nipponicum* と命名された。棘の数と配列で、同属他種との区分と同定が可能となる。

### ***Haemonchus contortus* (捻転胃虫) The sheep wireworm**

#### **または Twisted stomach worm**

[概要] メンヨウ、ヤギ、ウシなどの胃に寄生して吸血する線虫で、畜産国で大きな問題となる。

[語源] *Haemo-* は血液の意味で「吸血」から来ている。らせん状に捻転している様子が種名、英名および和名に示されている。

### ***Hemostrongylus ratti* (広東住血線虫) *Angiostrongylus cantonensis* の旧名**

[概要] 上記の *Angiostrongylus cantonensis* 広東住血線虫に同じ。

[語源] *Hemo* は血液の意味で、*strongylus* は円筒状を意味する。そのような形状の虫体が *Ratti* ラットの血液中に寄生していることが学名で表されている。

***Heterophyes heterophyes nocens* (有害異形吸虫) (*Heterophyes heterophyes*  
異形吸虫) A kind of trematode producing heterophyiasis**

[概要] ヘナタリが第一段階の中間宿主，次の段階ではボラ，メナダ，ハゼに寄生する。これらの魚類の生食や不完全調理が原因でヒトに感染する。プラジカンテルで駆虫。

[語源] “異なる”意味の *Hetero-* が繰り返されている。*phyes* (形) は成虫の形が前方と後方の2部に分かれていて一般の吸虫とは異なることを示す<sup>23)</sup>

***Hymenolepis diminuta* (縮小条虫) The rat tapeworm**

[概要] 縮小条虫の感染幼虫を含む昆虫が食材の表面に付いていると，幼虫(システィセルコイド)がヒト・哺乳類の口から入ることがあり，それが小腸で成虫へと発育する。このサイクルは，広く世界中の非衛生的な地域でまわっている。下痢・腹痛が主症状である。検便により特有の虫卵を見出すことにより，この寄生虫の成虫感染が診断される。成虫はプラジカンテルで駆虫できる。

[語源] この条虫は膜様条虫科に属する。*Hymen-* は膜 (**hymen**) を意味する。種名の *diminuta* は diminish (縮小する) からきている。確かに，小さい条虫ではあるが，決して最小ではない。小形条虫，更にはエキノコックスのほうがより小さい。

***Iodamoeba buetschlii* (ヨードアメーバ)**

[概要] 世界的に広く分布している。日本でも見つかるが，病原性は低い。

[語源] *Iod-* はヨウ素の意味。*buetschlii* は Dr. Buetschli という学者に因んで付けられた。

***Inermicapsifer madagascariensis* (マダガスカル条虫)**

[概要] アフリカのサハラ以南のげっ歯類には珍しくない条虫である。ヒトでも小児を中心に稀ながら感染することがある。節足動物からげっ歯類やヒトに

感染すると考えられている。体長 40~50 cm の成虫が腸管に寄生するが、プラジカンテルによる駆虫が期待される。

[語源] *Inermi* は unarmed, すなわち頭節に鉤や額嘴をもたない意味である。ここでいう arm は決して「武器」の意味ではない。Arms なら “Farewell to Arms” (Hemingway の「武器よさらば」) のように「武器」を連想する。ここでは武器のニュアンスは薄れ “備わっている” 程度の意味である<sup>23)</sup> *capsi* は case で, *fer* は fero で, もっているという意味である (すなわち, 頭節に鉤や額嘴をもたない意味)<sup>23)</sup> 種名 *madagascariensis* は, この条虫がマダガスカル北西の島で発見されたことに由来する。

### ***Isospora belli* (戦争イソスポーラ)**

[概要] 単細胞の寄生虫, 原虫の 1 種で, 孢子虫類である。第一次世界大戦中に流行した。AIDS の合併症として現在注目される。

[語源] 同じ意味の *Iso-* と *spore* 孢子が組み合わさったのが *Isospora* で属名となっている。*belli* には, 「戦争」の意味がある<sup>23)</sup>

### ***Isospora hominis* (ヒトイソスポーラ)**

#### **A protozoa producing human coccidiosis**

[概要] *Sarcocystis hominis* (ヒト肉孢子虫) が正しい。ヒトは, ウシから感染する。肉孢子虫に分類される。

[語源] 言葉だけからすると *hominis* はヒトの意味であるが, 本来ウシの寄生虫であることが後でわかった。

### ***Leishmania* spp**

世界的な感染症として重要なリーシュマニア症は, WHO の指定する世界 5 大寄生虫症に数えられる。特に熱帯・亜熱帯ではきわめて重要であるが, 温帯にも分布する。それには, 媒介昆虫 (ベクター) のサシチョウバエの分布が関

わってくる。病巣が内臓型か、皮膚・粘膜型かによって大別されるが、少なくとも数種類がある。将来さらに細分化される可能性がある。治療目的で、アンチモン剤が使われることもあるが、成功裏の治療方法は確立されていない。なお、spp は複数の種ありとの意味である。学名未定の1種のみであれば、sp とする（勿論 species の略）。spp（通常 spp. のように period はつけない）も sp. も決してイタリック体にはしないこと。

### *Leishmania donovani*（ドノバンリーシュマニア）

#### **Leishmania producing kalazar, or visceral leishmaniasis**

[概要] 内臓リーシュマニアの一種で、肝・脾の腫瘍、貧血、白血球減少をもたらす。

[語源] Dr. Leishman, Dr. Donovan のいずれもアイルランドの医師で、学名に反映されている。

### *L. tropica*（熱帯リーシュマニア）

#### **Leishmania producing old world cutaneous leishmaniasis**

[概要] 東洋瘤腫 Oriental sore とよばれる皮膚疾患をもたらす。

[語源] 熱帯の *tropica* が種名となっているが、熱帯地域以外にも分布する。

### *L. braziliensis*（ブラジルリーシュマニア）

#### **Leishmania producing American mucocutaneous leishmaniasis**

[概要] 粘膜・皮膚病変をもたらすリーシュマニア、鼻中隔欠損が見られることもある。

[語源] *braziliensis* は、勿論ブラジルの意味である。

### *L. mexicana* (メキシコリーシュマニア)

#### **Leishmania producing chiclero ulcer**

[概要] 病巣は皮膚のみのリーシュマニア，特に耳に多い。

[語源] *mexicana* はメキシコが種名となっている。

### *Mansonella perstans* (= *Mansonella ozardi*), (オザルド糸状虫)

#### **Ozzard's filaria producing mansonelliasis ozaardi or Ozzard's filariasis**

[概要] 中南米に分布するフィラリアの一種で，ヌカカに刺されて感染し成虫はヒトの腹腔に寄生する。病原性はフィラリアとしては低い。

[語源] *Mansonella* は研究者 Manson (1891) に因んで付けられた。*perstans* は英語の *persist* に相当する。

### *Mesocestoides lineatus* (有線条虫)

#### **A cestode producing mesocestoidiasis lineata**

[概要] イヌネコ犬猫を中心に世界的に分布するが，時にヒトにも感染する。生活史はまだよくわかっていない。症例数は乏しいが，感染者はマムシを生食している傾向にある。駆虫にはプラジカンテルの投与を試みることになる。

[語源] *Meso-* は「中間」，*-cestoides* は「cestode に似た」意味である。*lineatus* は「線」の意味である。有線条虫は，学名の直訳は“中条虫様-線”，このあたりから造られた和名と考えられる。

### *Metagonimus yokogawai* (横川吸虫)

#### **Yokogawa's fluke producing metagonimiasis**

[概要] アユ，シラウオなどの淡水魚の生食でヒトが感染し，小腸に寄生する小さな吸虫である。これにより腹痛，下痢に悩むが，多数寄生しない限りあまり重い症状とはならない。全国的に分布する。プラジカンテルがこの成虫の駆虫に効果的である。

[語源] *Meta-* は後ろの意味で, *genitalia* 生殖器官 (精巢) が成虫体の後方部に位置する。

腹吸盤 *acetabulum* が生殖盤と合わさって生殖腹吸盤装置 *acetabulo-genital apparatus* を形成している。種名 *yokogawai* は横川定 (やはり寄生虫学の権威であった横川宗雄の父君) が台湾でこの寄生虫を発見したことに因んでいる。

### ***Necator americanus* (アメリカ鉤虫) The American hookworm**

[概要] 昔は十二指腸虫と呼ばれた。吸血することで悪名高い寄生虫である。駆虫にはコンバントリンがよい。

[語源] *Necator* は殺戮の意味である。英名に直訳すると *American murderer* (アメリカの殺戮者), 人の腸管壁より吸血する。アメリカでよく研究されたが, 決してアメリカに多いわけではない。

### ***Onchocerca volvulus* (回旋糸状虫)**

#### **The convoluted filaria producing blinding filariasis**

[概要] フィラリアの一種, 中米グアテマラ, 西アフリカに多い。ブユに刺されて感染する。イベルメクチンでその幼虫 (マイクロフィラリア) 数をコントロールできる。

[語源] *Oncho-* は“球状, 鉤”の意味で, *-cerca* は「尾」のことである。住血吸虫の幼虫の1段階である *cercaria* (複数形は *cercariae*) は「有尾幼虫」と訳されるが, セルカリアとカタカナ表記されることのほうが多い。

### ***Opisthorchis felineus* (猫肝吸虫) The cat liver fluke**

[概要] ネコに寄生する肝吸虫の1種で, ヒトへの寄生は稀であるが, 症例はある。ヨーロッパ, シベリアに分布。第一中間宿主はマメタニシ, 第二中間宿主はウグイ。プラジカンテルが有効と考えられる。

[語源] *Opisth* は後部の意味である (*opisthograph* なら両面書き写本); *orchis*

は辜丸(精巢)で、これが後部にあることから、属名が成り立っている。*felineus* はネコ(猫)の意味である。

### ***Paragonimus westermanii* (ウェステルマン肺吸虫)**

**One of the number of lung flukes producing paragonimiasis westermani**

### ***P. miyazakii* (宮崎肺吸虫)**

**A kind of the lung fluke producing paragonimiasis miyazakii**

[概要] ウェステルマン肺吸虫はサワガニ、モクズガニから感染するので、これらの生食は禁忌である。生のサワガニを臼で潰した際には、とばっちりの飛散がないように気をつけねばならない。地方(例えば高知県)の郷土料理の準備中に皿等を介してヒトに感染することがある。血痰が出るケースと出ないケースとがある。

宮崎肺吸虫のヒトへの感染源は今のところサワガニのみである。予防策としては、見た目に美麗で商品価値があり全国的に流通するサワガニの生食を絶対に慎むことである。症状は、ウェステルマン肺吸虫と異なり、血痰が出ない。例外はあるが、人体内ではふつう成虫とならず、肺内外の組織を移動し気胸・胸水貯留が認められる。治療にはプラジカンテル praziquantel (ビルトリシド®)が投与される。

[語源] *Para-* は「平行・併行」の意味である。学生には *para-sol* がわかりやすい(-*sol* 太陽と併行して、太陽の下で)さらに判りやすいのは、2020年は東京で開催の *para-lympic* である。これについて今更の解釈は不要である。*-goniums*, 即ち「gonad 生殖器」が *para-*2つ並んであることから命名されている。*westermanii* は人名から来ている。

*miyazakii* は地名でなくて、人名である。肺吸虫研究の世界的な学者宮崎一郎博士に因んで付けられた種名である。

***Plasmodium spp* (マラリア原虫) Malarial parasites**

マラリアの総称的な学術表現である。日本語でマラリアとあれば、狭義には、病名である。広義には病名にとどまらず、その原因虫種の意味合いを含めて使われている。但し学者によりそのどちらで使うかは差異があるので、前後関係から見極めなければ成らない。

マラリアには多種類あり、ヒトに感染しないものもある。例えば、マウスに寄生が認められ、ヒトには感染しないものもある。ハマダラ蚊（アノフェレス属の蚊）に刺されて感染する。ヒトでの典型的な症状は、赤血球に感染して破壊するので「貧血」、破壊された赤血球が引き金となって「発熱」、それらの赤血球を処理する脾臓が腫れて「脾腫」。

***Plasmodium vivax* (三日熱マラリア原虫)****Vivax malaria または Tertian malaria**

[概要] 日本は奈良時代の記録や鎌倉時代の日記文学が示すように、昔からマラリアに悩んでいたことがわかる。現在、日本土着のマラリアは完全に制圧されているが、日本人の海外での感染があとをたたない。早期発見・早期治療がきわめて重要である。そのためには、蚊に刺された日時を記録しておくことである。発症は、ふつう1～2週間から1か月のあいだ。

[語源] mal- は“悪い”意味、aria はイタリア語で「空気」。ヨーロッパでは悪い空気のある場所に行って感染すると考えられていた。古代インドでは、蚊に刺されて感染することの認識があった。しかし、この事実は語源には反映されていない。vivax は“生き生きとした”，Tertian は“足掛け3日に1度”，すなわちおよそ48時間ごとの高熱の意味である。

***P. ovale* (卵形マラリア原虫) Ovale malaria**

[概要] 比較的良性のマラリアである。症例は多くはない。他のマラリアと比較して、三日熱マラリアに似る。

[語源] 感染を受けた赤血球が卵形に変形することから、種名 *ovale* という名前が付けられた。

### ***Plasmodium falciparum* (熱帯熱マラリア原虫)**

#### **Falciparum malaria または Malignant tertian malaria**

[概要] 破壊を受ける赤血球の割合が高いため、貧血が顕著、悪性のマラリアと呼ばれる。南宋貿易のための港を神戸に開いた平清盛もこれで死亡したといわれる。発熱のパターンは不規則である。

[語源] *falci* は「半月形, 三日月」の意味である。これは、虫体の雄性生殖母体、雌性生殖母体がそのような形状をしていることから付けられた（他のマラリアのそれは、丸い形状の傾向）。

### ***Plasmodium malariae* (四日熱マラリア原虫)**

#### **Malarial malaria または Quartan malaria**

[概要] 発熱のパターンは72時間毎である。すなわち足掛け4日の周期である。不完全な治療後数十年経ってから繰り返すことがあるマラリア。

[語源] *malariae* は勿論マラリアの意味であるが、この学名からはこの虫種の特徴はわからない。

### ***Pulmonema cantonensis* 広東住血線虫の旧名**

[概要] *Angiostrongylus cantonensis* 広東住血線虫と同じ

[語源] *Pulmo-nema* 肺に寄生する線虫の意味である。種名の *cantonensis* はもちろん中国「広東」からきている。

### ***Rhabditis hominis* (人糞虫)**

[概要] 本来ヒトに寄生する線虫ではないが、一時的にヒトの糞便中に見出されることがある。

[語源] *Rhabditis* は棍棒状を意味する。*hominis* はヒト（人）の意味なので、学名の後ろから前にうまく訳されている。

### ***Raillertina celebensis* （セレベス条虫）**

#### **A cestode producing raillietiniasis celebrensis**

[概要] 東アジア，オーストラリアなどに分布。アリなどの昆虫が中間宿主で、ネズミやヒトに感染して成虫となる。成虫の体長は40 cmほどである。

[語源] 日本人学者が発見したが，その名は学名に反映されていない。属名 *Raillertina* は Dr. Railliert（フランス寄生虫学者）に因んで付けられた。種名は，島名 Celebes（セレベス）から来ている。

### ***Sarcocystis hominis* （ヒト肉胞子虫）**

[概要] ウシの肉の生食で感染し，人体内腸管で有性生殖を行う。イソスポーラと異なり，ヒト腸管内で無性生殖は行わない。日本での症例は少ない。症状も重くない。

[語源] 和名は，学名を忠実に訳出している。*Sarco-* は筋肉，*cystis* は胞状のもの，*hominis* はヒトの意味である。

### ***Schistosoma haematobium* （ビルハルツ住血吸虫） Vesical blood fluke**

[概要] アフリカ，中東で幼虫が皮膚を通して侵入することにより感染し血尿を出す。日本には分布しないが日本人が現地で感染した症例はある。（**日本住血吸虫と同属異種**）

[語源] *haemato-* は血液の意味なので，種名は“血液に住む *bium*”吸虫である。次の2種とも，門脈の血液内寄生なので，3種いずれも“血液に住む *bium*”であることには代わりはないが，この *S. haematobium* の命名が早かった。

### ***Schistosoma japonicum* (日本住血吸虫) Oriental blood fluke**

[概要] もともと日本で研究・発見された。かつての3大流行地は甲府盆地、広島県片山(神辺)地方、筑後川流域。現在、国内の新たな感染は完全に制圧されたが、海外(中国、フィリピン)で感染することがある。流行地では足脚を湖、水路の水に浸さないこと。

日本住血吸虫の中間宿主「宮入貝」の学名のひとつに *Oncomelania quadrasi* がある。これは、フィリピンにおける中間宿主貝。

[語源] *Schisto-* は“分かれた”の意味である。*-soma* は「体」の意味である。吸虫類一般に雌雄同体であるが、例外的に住血吸虫は雌雄異体である。“分かれた”とはこれを意味している。マラリアで *schizont* シゾントはヒトの肝臓で増殖する分裂体、*schizophrenia* は精神分裂症。英語名は学名と異なり、オリエント(おそらく東洋の意味合い)の住血吸虫との認識で名付けられたのであろう。

### ***Schistosoma mansoni* (マンソン住血吸虫) Manson's blood fluke**

[概要] アフリカ、ラテンアメリカに分布する住血吸虫。もともとアフリカに分布、黒人奴隷が移動させられ、ラテンアメリカに伝わったとされる。日本には分布しないが、日本人症例はある。流行地に渡航した際は要注意。

[語源] *mansoni* マンソンは、研究者に因んでつけられた。

### ***Strongyloides stercoralis* (糞線虫) The threadworm**

[概要] 熱帯・亜熱帯に広く分布する線虫。日本では奄美大島、沖縄で問題。土壤中の幼虫がヒトに経皮感染し激しい下痢、肺炎などの原因となる。免疫力低下のケースにおいて重篤な症状を呈する。イベルメクテンが効く。

[語源] *Strongyl-* の部分は円筒形(すなわち線虫)を意味している。*-oides* は「類似」の意味である。*ster-* は *sterile* “不毛の”の意味から糞の訳語。それは、滅菌 *sterilization* で理解しやすい。

***Taenia saginata* (無鉤条虫) The beef tapeworm**

[概要] 牛肉の生かレアを食べて感染する条虫（世間ではサナダムシ真田虫と呼ばれる）。

[語源] *Taenia* は「ひも」、*saginata* は「太った」意味である。

***T. solium* (有鉤条虫) The pork tapeworm**

[概要] 豚肉の生かレアを食べて感染する条虫。長い成虫がヒトの腸管に寄生する。その腸管で、成虫から産出された虫卵が、糞便質に混ざって排出される前に、孵化してその幼虫が体内各所に侵入するケースあり、これに対しては治療薬なく極めて厄介である。

[語源] *solium* は高い椅子の意味である。

***Thelazia callipaeda* (東洋眼虫) The Oriental eyeworm**

[概要] 昆虫メマトイによりイヌやヒトの眼に寄生する線虫で、東日本よりは西日本に分布する。海外では、東アジア、東南アジア、ロシアなどで見出されている。

[語源] 属名には“吸う”意味があり、種名は“美しい子供”の意味という<sup>23)</sup>

***Toxocara cati* (猫回虫) The cat ascarid**

[概要] ネコの腸管内に成虫が寄生する。ヒトにも感染することがあるが、成虫とはならず人体内を移行し病害作用を示す。

[語源] *Toxo-* は半月形（または三日月）の意味、*cara-* は頭（頭端の翼状の部分）、*cati-* はネコの意味である。

***Toxocara canis* (犬回虫) The dog ascarid**

[概要] イヌの腸管内に成虫が寄生する。ヒトにも感染することがあるが、成虫とはならず人体内を移行し病害作用を示す。眼に侵入した症例もある。

[語源] *canis* はイヌ (犬) の意味である。

### ***Toxoplasma gondii* (トキソプラズマ) A protozoa producing toxoplasmosis**

[概要] 産婦人科領域で現在でも大切な原虫。妊婦がネコ糞便から初感染を受けると胎児に重篤な症状が現れる。

[語源] *Toxo-* は半月形, *-plasma* は構造物, ギリシア語の形あるものから, 分裂体 (タキゾイト, ブラジゾイト) のそれぞれが, そのような形態であるし, 弓状構造物でもある。

### ***Trichinella spiralis* (旋毛虫) The trichina worm**

[概要] 哺乳類の肉の生食で感染しヒト横紋筋に幼虫が袋状の中で巻いた状態で寄生する。もともと欧米の自家製ソーセージによる感染例が多かった。日本でもクマ肉の生食または不完全調理肉摂取による感染が見られる。最近では, 北海道のクマ肉を茨城県のレストランで食した食中毒事故が全国的に報道され (2016年12月22日), 学会で報告されている。

[語源] *Trichinella* は毛状のものをさす。 *spiralis* は“渦を巻いている”意味である (英語の *spiral*)。または, *spiralis* に“旋回”の意味が込められている。“旋回”の意味がこめられた学名の寄生虫は, 他にも旋尾線虫 *Spirurina* sp がそうである。

### ***Trichomonas vaginalis* (膣トリコモナス)**

#### **A protozoa producing trichomoniasis**

[概要] 代表的な寄生部位は膣 *vagina* で女性の膣炎がよく知られているが, 伝播者の男性にも前立腺や尿道炎の現れることもある性行為感染症の一種。治療にはメトロニダゾールが有効である。

[語源] *Tricho-* は「鞭毛」, *-monas* は「単細胞生物の個体」を意味している。

***Trichostrongylus orientalis* (東洋毛様線虫)****A nematode producing a kind of trichostrongyliasis (trichostrongylosis)**

[概要] 幼虫が経口侵入しヒト小腸に成虫が寄生する。弘前大学山口富雄教授らにより精力的な研究が成された。消化不良のみならず、頭痛、めまい、疲労感、不眠などの神経症状を呈する。近年、稀となっている。コンバントリンが著効を呈する。

[語源] *Tricho-*には“毛様”の意味がこめられている。円筒状(すなわち線虫) *strongylus orientalis* は勿論“東洋の”である。素晴らしく巧みな訳語である。

***Trichuris trichiura* (鞭虫) The human whipworm**

[概要] 生野菜、土壌などから幼虫保有卵が経口侵入して感染する。頭部がほっそりとしていて、尾部が太いこの線虫の成虫はヒトの盲腸・虫垂に寄生する。そのほっそりとした部分は体長の半分以上を占めており、寄生部位にもぐりこませているので駆虫が難しいとされてきた。メベンダゾールの有効性に期待がかけられるが、薬剤が到達しにくいこともあり、消化管寄生虫の中では駆虫が比較的難しい。

[語源] 属名 *Trich-*には「鞭状」の意味がこめられている。成虫は、確かに鞭状である。Whipworm も、成虫が「鞭の形状をした虫」の意味である。

***Vampirolepis nana* (旧学名 *Hymenolepis nana*) (小形条虫)****The dwarf tapeworm**

[概要] ヒトやネズミの小腸に成虫が寄生する。プラジカンテルで駆虫される。

[語源] Vampire に“吸血コウモリ、搾取者”の意味がある；-*lepis* は殻、虫卵の中にレモン形をした幼虫被殻と呼ばれる構造体がある。*nana* は人間の女性名でも見かける「(小さくて) かわいい」意味合いである。ヒトやげっ歯類の小腸管に寄生する小さな条虫であるが、条虫の中で最小ではない。

***Wuchereria bancrofti* (バンクロフト糸状虫) Bancroft's filarial worm**

[概要] ネットアイエカ、アカイエカ、コガタアカイエカ、ハマダラカ、トウゴウヤブカなどの蚊に刺されて感染する。かつて全国的に分布していたが、今では完全に制圧されている(愛媛県佐田岬半島にも、制圧記念碑がある)。今日でも熱帯・亜熱帯では蚊に刺されない予防対策が大切である。

[語源] ミクロフィラリアを発見した Dr. Wucherer (ドイツ人医学者) に因んで属名がつくられた。雌成虫を発見した Dr. Bancroft (イギリス人学者) が種名に示されている。

**【追記】** J, K, U, X, Y, Z について、今回は寄生虫の学名をあげて、その[概要]と[語源]を記すにいたらなかった。調べた限りでは見出せなかったか、または検討不十分な部分である。今後“辞書”として完成させていくためには、更なる検討を進めたい。

**【結 語】**

知る限り寄生虫の学名は、実に合理的に出来ているものが多い。漢字も合理的な文字であることから、学名に対する和名が絶妙に造語されている傾向にある。しかし、調査した限り、英語名は必ずしもみつかるとはいえなかった。ゆえに苦肉の策で、無理やり解説的な英語表現となったものがある。今後の継続的な努力も必要であると考えられる。

**【謝辞】**

執筆者牧純の北里大学医学部勤務期間中、故柳沢十四男教授には寄生虫学ならびに語源研究で、並々ならぬご教示を受けた。寄生虫学名の語源は、包括的に医学部学生たちに配布されたプリントに収められ、その後「参考にした主要な文献・資料 #23」に、その多くが示されている。ここに、改めて謝意を表すると同時に、本小論を同教授に捧げたい(2017年11月29日記す)。

## 参考にした主要な文献・資料

- 1) Van Thiel, P. H. : Anisakiasis, *Parasitology* 52, 16-17 (1962)
- 2) Yoshimura, H. : Parasitic granuloma with special reference to clinical parasitology of anisakis-like larva infection in the digestive apparatus of man. *Japanese Journal of Parasitology* 15, 29-30 (1966)
- 3) Yokogawa, M. & Yoshimura, H. : Clinicopathologic studies on larval anisakiasis in Japan. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*. 16, 723-728 (1967)
- 4) Faust EC, Russel PF & Jung RC : Craig & Fausts' *Clinical Parasitology* 8<sup>th</sup> ed. Lea & Febiger, Philadelphia (1970)
- 5) Cheng, T. C. : "General Parasitology", Academic Press (New York, San Francisco, London) (1973)
- 6) Wahrig Deutsches Wörterbuch : Bertelsmann Lexikon-Verlag (Berlin, München, Wien) (1972)
- 7) Kagei, N. et al. : A case of abdominal syndrome caused by the presence of a large number of Anisakis larvae. *International Journal for Parasitology* 22, 251-253 (1992)
- 8) Kita, K. & Takamiya, S. : Electron-transfer complexes in *Ascaris* mitochondria. *Adv. Parasitol.* 51 : 95-131 (2002)
- 9) Suzuki, M. (organizer) : Economic loss caused by parasitic diseases, a Mombusho Grant Meeting, December 10<sup>th</sup> 1997 at Toranomon Pastral (1997)
- 10) Wattan S.Janjaroen : Economic loss caused by parasitic diseases in Thailand, 世界規模でみた寄生虫病による経済損失に関する文部省科学研究発表・会議 (オーガナイザー；鈴木守), 虎ノ門パストラル (東京), 12月10日 (1997)
- 11) 吉田幸雄・有菌直樹 : 『図説人体寄生虫学』改訂第8版, 南山堂 (東京) (2011)
- 12) 松林久吉編集, 横川宗雄 : 『人体寄生虫学ハンドブック』横川吸虫, 朝倉書店 (東京) (1972)
- 13) 佐々 学 : 『人体病害動物学—その基礎・予防・臨床・治療』医学書院 (東京) (1975)
- 14) 稲臣成一 : 横川吸虫『臨床寄生虫学』(大鶴正満編集) 南江堂 (東京) (1978)
- 15) 柳沢十四男, 井上義郷, 中野健司 : 『寄生虫・衛生動物・実験動物』講談社サイエンティフィック, 講談社 (東京) (1983)
- 16) 勝部泰次著 : 『本邦における人獣共通寄生虫症』(林 滋生編集代表) "食品衛生と人獣共通寄生虫症", 文永堂 (東京) (1983)
- 17) 保阪幸男著 : "横川吸虫"『新医寄生虫学』(鈴木了司, 安羅岡一男, 柳沢十四男編) 第一出版 (東京) (1988)
- 18) 小島莊明編集 : 『NEW 寄生虫病学』南江堂 (東京) (1993)
- 19) 伊藤洋一 : 『医療技術者のための医動物学』講談社サイエンティフィック, 講談社 (東京) (1995)
- 20) 小泉 丹 : 『人体寄生虫』(第2刷発行) 岩波全書164, 岩波書店 (東京) (1953)

- 21) 大鶴正満編集：『臨床寄生虫学』南江堂（東京）（1978）
- 22) 林 滋生編集代表：『本邦における人獣共通寄生虫症』文永堂（東京）（1983）
- 23) 鈴木了司, 安羅岡一男, 柳沢十四男編：『新医寄生虫学』第一出版（東京）（1988）
- 24) 上村 清, 井関基弘, 平井和光, 木村英作：『寄生虫学テキスト』（第2版3印刷）文光堂（東京）（2005）
- 25) 西村謙一著：『人体神経系寄生虫症』新興医学出版社（東京）（1991）
- 26) 宮崎一郎・藤 幸治著：宮崎肺吸虫症『図説人畜共通寄生虫症』九州大学出版会（福岡）（1988）
- 27) 村上 一, 他編集：『人畜共通伝染病』旋毛虫症 338-341, 近代出版（東京）（1982）
- 28) 板垣四郎・久米清治：『家畜寄生虫病学』朝倉書店（東京）（1978）
- 29) 山口富雄：『日本における旋毛虫ならびに旋毛虫症』南江堂（東京）（1989）
- 30) 編集代表石田名香雄：研究社『医学英和辞典』研究社（東京）（1999）
- 31) 横田真二：素材から見る『からだと病の英単語』- 語源中心医用英語の持つ秘密 -, 南雲堂フェニックス（東京）（1999）
- 32) 編集代表小稻義男：『新英和大辞典』第5版, 研究社（東京）（1992）
- 33) 土屋友房編：『微生物・感染症学』化学同人（東京）（2008）
- 34) 関水和久編著：『やさしい微生物学』廣川書店（東京）（2011）
- 35) 岩崎民平・小稻義男監修：『新英和中辞典』第4版15刷, 研究社（東京）（1977）
- 36) 磯垣 弘, 影井 昇：アニサキス幼虫の多数寄生を見た1症例, 日本臨床寄生虫学雑誌 2, 117-118（1991）
- 37) 山本 馨, 樽崎雅信：アニサキス症の新しい治療法, 日本臨床寄生虫学雑誌 5, 79-80（1994）
- 38) 山本 馨, 栗原 毅, 福生吉裕：アニサキス症のユニークで簡便な治療法, 日本医大医学会雑誌, 179-180（2012）
- 39) 小路悦郎, 他：ルゴール液による胃アニサキス症の治療, 日本臨床寄生虫学雑誌 5, 81-83（1994）
- 40) 鈴木 潤, 他：1996～2001年におけるサケ・マス類からのアニサキスI型幼虫の検出状況, 東京衛研年報 52, 26-29（2001）
- 41) 鈴木 潤, 村田理恵, 柳川義勢：マグロに寄生したアニサキスによる食中毒事例とマグロを中心とした魚類のアニサキスの寄生状況, 日本臨床寄生虫学雑誌 18, 18-20（2007）
- 42) 前田卓哉, 他：スッポンを感染源とする旋毛虫症の集団発生, 日本臨床寄生虫学雑誌 20, 37-39（2009）
- 43) 荒井俊夫, 他：千葉県を中心とした太平洋側地域におけるアニサキス症44例の解析, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 37-40（2013）
- 44) 鈴木 淳, 他：2011年～2012年の東京都におけるアニサキスによる有症事例, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 41-43（2013）

- 45) 杉山 広, 他: アニサキスによる食中毒: 届出に関わる法改正とレセプトデータに基づく患者数の推計, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 44-46 (2013)
- 46) 今本栄子, 他: 胃アニサキス症のNBI観察, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 47-49 (2013)
- 47) 清水葉子, 他: 第3期幼虫と第4期幼虫が混在し多数感染していたアニサキス症の一例, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 50-52 (2013)
- 48) 下里直隆, 他: 嚥下困難を契機に発見された食道アニサキス症の一例, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 53-55 (2013)
- 49) 生野 博, 他: 最近のアニサキス症における臨床例と原因魚種についての考察, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 63-65 (2013)
- 50) 中谷 聡, 他: アナフィラキシー症状により診断された胃アニサキス症の1例, 日本臨床寄生虫学雑誌 24, 112-114 (2013)
- 51) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(1) - 特に広東住血線虫の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 53, 23-26 (2011)
- 52) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(2) - 特に肝吸虫(旧名肝ジストマ)の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 53(9), 37-42 (2011)
- 53) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(3) - 日本海裂頭条虫の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 53(11), 37-40(2011)
- 54) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(4) - ウェステルマン肺吸虫の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 54(2), 36-40 (2012)
- 55) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(5) - 横川吸虫類 (*Metagonimus* spp.) の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 54(4), 39-45 (2012)
- 56) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(6) - 剛棘顎口虫の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 54(5), 25-28 (2012)
- 57) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(7) - 無鉤条虫の感染源となりうるもの, *New Food Industry* 54(7), 45-48 (2012)
- 58) 牧 純, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(8) - 棘口吸虫類の感染源となりうるもの(ノート), *New Food Industry* 54(9), 39-42 (2012)
- 59) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 玉井栄治, 河瀬雅美, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(9) - 現代の日本人でも安心できない回虫の感染, *New Food Industry* 55, 43-49 (2013)
- 60) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 玉井栄治, 河瀬雅美, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(10) - 豚肉の生食のみが感染源でない有鉤条虫に関する総括的認識, *New Food Industry* 55, 75-83 (2013)

- 61) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 玉井栄治, 河瀬雅美, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(11) - “勇氣”では防げないマンソン孤虫の感染と驚愕の結末, *New Food Industry* 56, 59-65 (2014)
- 62) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 玉井栄治, 相良英憲, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(12) - 現代の日本で極度に警戒すべき寄生虫, 旋尾線虫 *Spirurina* sp の感染源, *New Food Industry* 55(12), 31-34 (2013)
- 63) 牧 純, 田邊知孝, 畑 晶之, 坂上 宏, 中村円香, 大西俊輔, 関谷洋志, 玉井栄治, 舟橋達也: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(13) - 刺身・寿司からの感染が怖いアニサキスの予防策の背景となる基本的知見, *New Food Industry* 57(5), 61-69 (2015)
- 64) 牧 純, 田邊知孝, 畑 晶之, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏, 舟橋達也: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(14) - 水生の食用植物, 生の牛レバーから感染する肝蛭, *New Food Industry* 57(7), 45-49 (2015)
- 65) 牧 純, 関谷洋志, 畑 晶之, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(15) - 虫卵・幼虫の付着した食材からも感染する小形条虫, *New Food Industry* 59(5), 49-54 (2017)
- 66) 牧 純, 関谷洋志, 中村円香, 畑 晶之, 玉井栄治, 坂上 宏: 人体への寄生虫感染を警戒すべき食材(16) - 新鮮な獣肉から感染する旋毛虫, *New Food Industry* 59(7), 33-38 (2017)
- 67) 牧 純, 玉井栄治, 関谷洋志, 廣瀬恭子, 秋山伸二, 難波弘行, 金 惠淑, 坂上 宏: 旅行医学・旅行薬学の視点より論考する釜山(韓国) - 心身の健康対策と旅による薬学的知見 - 松山大学論集 23(6), 257-281 (2012)
- 68) 牧 純, 宇都宮良子, 和田彩加, 廣瀬恭子, 秋山伸二, 難波弘行, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏: 訪問滞在地における健康の管理・増進及び保健医療文化誌に関する基礎研究 - 別府市(大分県)に関する旅行医学・旅行薬学の構築を試みて - 松山大学論集 24(1), 171-217 (2012)
- 69) 牧 純, 玉井栄治, 舟橋達也, 田邊知孝, 関谷洋志, 坂上 宏: 環太平洋地帯と近隣諸国において社会・経済損失をもたらす代表的な寄生原虫類に関する小考(研究ノート), 松山大学論集 24(2), 155-165 (2012)
- 70) 牧 純, 関谷洋志, 舟橋達也, 田邊知孝, 玉井栄治, 坂上 宏: 社会・経済損失をもたらす有鉤条虫の感染とその一次・二次予防の対策に関する基盤研究(研究ノート), 松山大学論集 24(3), 258-269 (2012)
- 71) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 見留英治, 玉井栄治, 明樂一己, 河瀬雅美, 坂上 宏: 裂頭条虫 *Diphyllobothrium* spp の感染をもたらす社会・経済損失とその一次・二次予防の対策に関する基盤研究, 松山大学論集 24(4-1), 132-152 (2012)
- 72) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 中西雅之, 秋山伸二, 難波弘行, 岩村樹憲, 舟橋達也, 玉井栄治, 河瀬雅美, 坂上 宏: 社会・経済損失をもたらす肝吸虫 *Clonorchis sinensis* の

- 感染とその一次・二次予防の対策に関する基盤研究, 松山大学論集 24(4-3), 251-273 (2012)
- 73) 牧 純, 玉井栄治, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 野元 裕, 明樂一己, 岩村樹憲, 河瀬雅美, 坂上 宏: *Metagonimus* 属吸虫類の感染による社会的・経済的損失および一次・二次予防の対策に関する基盤研究, 松山大学論集 24(5), 176-194 (2012)
- 74) 西川盛雄著: 『英語接辞研究』 開拓社 (東京) (2006)
- 75) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 中西雅之, 秋山伸二, 難波弘行, 岩村樹憲, 舟橋達也, 玉井栄治, 河瀬雅美, 坂上 宏: 社会・経済損失をもたらすアニサキスの感染および一次・二次予防の対策に関する基盤研究, 松山大学論集 24(4-1), 521-543 (2012)
- 76) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 玉井栄治, 坂上 宏, 河瀬雅美: 社会・経済損失をもたらす蛭虫 (ギョウチュウ) の感染および一次・二次の予防対策に関する基盤研究 (研究ノート), 松山大学論集 25(1), 213-220 (2013)
- 77) 牧 純, 関谷洋志, 田邊知孝, 舟橋達也, 玉井栄治, 坂上 宏, 河瀬雅美: 社会・経済損失をもたらすウエステルマン肺吸虫 *Paragonimus westermanii* の感染およびその一次・二次の予防対策に関する基盤研究, 松山大学論集 24(6), 261-281 (2013)
- 78) 大木道則等編集: 『化学大辞典』 東京化学同人 (東京) (1994)
- 79) 牧 純: “病と薬を表すことばの成り立ち”, 新居浜生涯学習大学, 松山大学公開講座 - ことばで巡る世界の歴史と文化 -, 新居浜市生涯学習センター, 8月22日 (2009)
- 80) 牧 純, 田邊知孝, 関谷洋志, 畑 晶之, 玉井栄治, 坂上 宏, 舟橋達也: 迷信的な動物性 “生葉” 等が原因となる広東住血線虫感染の概要と予測される社会・経済損失, 予防対策に関する基礎研究, 松山大学論集 26(6), 323-342 (2015)
- 81) 牧 純, 田邊知孝, 畑 晶之, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏, 舟橋達也: 宮崎肺吸虫に関する概要とその感染がもたらす社会・経済損失, 予防対策に関する基礎研究 (ノート), 松山大学論集 26(6), 389-402 (2015)
- 82) 牧 純, 田邊知孝, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏, 舟橋達也: *Sparganum mansoni* 幼虫感染の危険性, 社会・経済損失および予防対策に関する基礎研究, 松山大学論集 27(1), 145-165 (2015)
- 83) 牧 純, 田邊知孝, 関谷洋志, 畑 晶之, 玉井栄治, 坂上 宏, 舟橋達也: 血液寄生の吸虫類のひとつ日本住血吸虫に関する概要, その感染がもたらす社会・経済損失および予防対策に関する基礎研究 (研究ノート), 松山大学論集 27(1), 168-177 (2015)
- 84) 牧 純, 田邊知孝, 関谷洋志, 玉井栄治, 坂上 宏, 舟橋達也: 肝蛭の感染による社会・経済損失の軽減と予防を目指す基礎研究 (研究ノート), 松山大学論集 27(2), 93-109 (2015)
- 85) 牧 純, 関谷洋志, 相良英憲, 畑 晶之, 山口 巧, 玉井栄治, 坂上 宏: 縮小条虫の感染で予測される社会・経済損失の軽減と一次・二次予防に関する基礎研究, 松山大学論集 27(4-2), 201-222 (2015)
- 86) 牧 純, 関谷洋志, 相良英憲, 畑 晶之, 山口 巧, 玉井栄治, 坂上 宏: マンソン住

- 血吸虫感染の概要と予測される社会・経済損失の軽減・予防対策に関する基礎研究, 松山大学論集 27(4-3), 85-108 (2015)
- 87) 牧 純: 生体環境系薬学・環境衛生薬学の分野における教育研究, 国際社会貢献の基盤構築への協力と活動-特に熱帯寄生虫病学の視座より, 松山大学論集 28(1), 141-242 (2016)
- 88) 牧 純, 西岡麗奈, 有田孝太郎, 藤井健輔, 関谷洋志, 玉井栄治, 秋山伸二, 難波弘行: 魚類の生食による寄生虫感染の危険性の予知 (1) 横川吸虫の感染源となる魚類と喫食の方法に関する調査研究, 愛媛県病業会誌 107, 17-22 (2010)
- 89) 牧 純, 中西雅之, 関谷洋志, 西岡麗奈, 野元 裕, 秋山伸二, 難波弘行, 玉井栄治, 白石祥吾, 荒木 潤: 忘れてはならない愛媛県の風土病-歴史に学ぶべきバンクロフト糸状虫とウェステルマン肺吸虫の浸淫, 愛媛県病業会誌 108, 9-11 (2011)
- 90) 牧 純, 関谷洋志, 渡部真衣, 玉井栄治, 坂上 宏: 接頭語から入る薬学系の英単語の A から Z まで (ノート), 愛媛県病業会誌, 通巻 110, 15-18 (2012)
- 91) 渡部昇一: 『英語の語源』講談社 (東京) (1977)
- 92) 牧 純, 中野友寛, 関谷洋志, 渡部真衣, 玉井栄治, 坂上 宏, 秋山伸二, 難波弘行, 柴田和彦, 八重徹司, 山口 巧, 相良英憲, 出石文男: 日本人の広節裂頭条虫感染と駆虫薬に関する文献調査研究, 愛媛県病業会誌 110, 9-13 (2012)
- 93) 牧 純, 玉井栄治, 関谷洋志, 藤井健輔, 秋山伸二, 難波弘行, 坂上 宏: 薬学教育において大切なアニサキスに関する基本情報, 愛媛県病業会誌 111, 25-29 (2012)
- 94) 森下 薫: 『予防医学を基礎づけた人々-自体実験の勇者たち』大阪予防医学協会 (1978)
- 95) 小西友七・南出康世: ジーニアス英和辞典 第4版, 大修館書店 (東京) (2007)
- 96) 学校法人河合塾田代ら編集: 準備シリーズ・英語『語源中心 新方式語彙力拡充法』(開講前の必須ガイド・ブック) (1969)
- 97) 電子辞書 SH (Seiko Instruments Inc.) (ジーニアス英和大辞典等を内蔵)
- 98) 加藤勝治編: 『医学英和大辞典』南山堂 (東京) (1974)
- 99) 牧 純, 玉井栄治, 関谷洋志, 舟橋達也, 田邊知孝, 坂上 宏, 河瀬雅美: 薬学・科学用語を中心とした接尾語の A から Z (ミニレビュー), 愛媛県病業会誌, 通巻 112, 21-24 (2013)
- 100) 田中秀央編: 『羅和辞典』研究社 (東京) (1969)
- 101) 寺澤芳雄 (編集主幹): 『英語語源辞典』研究社 (東京) (1999)
- 102) 東 匡伸ら編集: 『シンプル微生物学』改訂第5版, 南江堂 (東京) (2011)
- 103) 北川 勲等: 『生薬学 (第4版)』廣川書店 (東京) (1992)
- 104) 牧 純, 村田安紀奈, 西岡茉莉, 菅野裕子, 有田孝太郎, 藤井健輔, 廣瀬恭子, 日野和彦, 中野友寛, 渡部真衣, 関谷洋志, 坂上 宏, 秋山伸二, 難波弘行, 玉井栄治: 6年制の薬学部医療薬学科における国際感染症に関する教育と研究 (文献調査による卒業研究の事例), 社会薬学 30, 54-58 (2011)

- 105) 牧 純, 村田安紀奈, 西岡茉莉, 菅野裕子, 有田孝太郎, 廣瀬恭子, 日野和彦, 中野友寛, 藤井佑輔, 渡部真衣, 坂上 宏, 関谷洋志, 秋山伸二, 難波弘行, 荒木 潤, 玉井栄治: 環太平洋地帯及び近隣諸国の寄生虫感染と治療薬に関する文献調査研究の試み－渡航医学と渡航薬学の視点より－, 松山大学論集 23(4), 191-214 (2011)